

令和5年度研究計画書

令和5年4月10日

研究種類	【基盤研究】		
研究課題	富士北麓の採取活動が維持されてきた社会的背景に関する研究		
研究代表者	小笠原輝（環境共生科）		
研究期間	令和5年度～7年度（3カ年）		
共同研究者	齋藤暖生（東京大学）	研究協力者	
研究目的		研究目標	
<p>富士北麓で続けられてきた採取活動のうちカヤ、スズタケを事例として、これらの採取活動とそれに関わる文化が継承されてきた社会的背景を把握する。採取活動やその文化の継承に地域のシンボルやアイデンティティー、外来者の参入状況などがどのように影響を与えているかを明らかにし、今後この地域において人間と周囲の自然環境との関係に関わる採取活動と文化を継承するための重要な知見を得ることを目的とする。</p>		<p>富士北麓の採取活動のうち、①カヤ、②スズタケを事例に、その継承されてきた採取活動とそれに関わる文化について次の点を明らかにする。</p> <p>(1) 採取活動が続けられてきた社会的背景を明らかにする</p> <p>(2) 採取活動やその文化の継承において、地域のシンボルやアイデンティティー、外来者の参入などの要因との関連性について検討する</p> <p>(3) 採取活動の記録や情報整理から、この地域において人間と周囲の自然環境との接点に関わる採取活動や文化を継承していくための基礎資料を作成する</p>	
全体の研究計画	<p>【研究目標（1）】</p> <p>聞き取り調査 採取活動の社会的変容 採取活動の実態（慣行・技術・採取民具、加工工程、加工民具など）</p> <p>参与観察（採取者とともに行動） 採取活動の実態（慣行・技術・採取民具・場所や動植物の知識、行動様式、人間関係など）</p> <p>古文書などの資料整理</p>		
	<p>【研究目標（2）】</p> <p>聞き取り調査 参与観察（採取者とともに行動） また、それぞれの採取活動における集団間の行動比較を行い、行動や知識の量、外来者に対する考え方などの社会的、社会的な相違点についての検討。</p> <p>【研究目標（3）】</p> <p>聞き取り調査 参与観察（採取者とともに行動） 採取量・採取種・採取日数などの行動記録 採取活動の映像記録（採取者の目線カメラ・俯瞰撮影）</p> <p>古文書などの資料整理</p> <p><スケジュール></p> <p>【1～3年目】 富士北麓における採取文化全般に関する調査研究・資料整理 採取場所や採取活動の社会変容に関する調査研究 映像資料撮影および編集作業</p> <p>【1年目】 ススキ（カヤ）の採取に関する調査</p> <p>【2年目】 スズタケの採取に関する調査</p> <p>【3年目】 採取活動における集団間の行動等の比較 他地域の類似する採取活動や文化との比較 採取活動や文化が継承されてきた社会的背景やその要因との関連性についての検討 採取活動や文化の継承するための基礎資料作成 研究総括</p>		

前年度研究計画 及び研究成果	新規研究課題
当該年度の実施内容	<p>富士北麓における採取文化全般に関する調査研究・資料整理</p> <p>採取場所や採取活動の社会変容に関する調査研究</p> <p>映像資料撮影および編集作業</p> <p>ススキ（カヤ）の採取に関する調査</p>
期待される研究成果	<p>採取活動が続けられてきた社会的背景をさぐり、人間と周囲の自然環境との関係に関わる採取活動とその文化を継承していくために重要である次の知見が得られる。</p> <p>この地域において人間と周囲の自然環境との関係に関わる採取文化を、将来にわたって継承していくための資料</p> <p>富士山の全体の文化を考える上で必要な「すそ野」の文化の把握と発信につながる採取文化が将来的に継承されるために必要な補助や施策が明らかとなる。</p>